

第2次島田市茶業振興基本計画

2018年度～2025年度

(平成30年度～令和7年度)

概要版

＜第2次島田市茶業振興基本計画の骨子＞

- I. 計画の策定にあたって
- II. 現状と課題
- III. めざす姿
- IV. めざす姿を実現するための施策（振興策）
 1. 魅力ある茶業経営体の育成
 2. 茶園の集積や生産基盤の整備
 3. 島田市のお茶のブランド化と販路の拡大
 4. 中山間地域の特性を活かした茶業の振興
 5. 島田市緑茶化計画の推進
- V. 参考資料

◆計画策定の趣旨

島田市では、平成 23 年に島田市お茶振興基本計画を策定し、茶業の振興を図ってきました。この計画では、「お茶は暮らしと産業の柱」を基本理念とし、「人と産業がいつも活気に満ちている元気な茶業」を本市の将来像に掲げて取り組み、茶園の集積や区画整理等による茶生産基盤の強化、首都圏でのアンテナショップの設置や海外見本市への出展、海外輸出に向けた取組支援、また、茶業振興協会、農協、茶業関係団体がそれぞれの役割を実践してきたことで、一定程度の効果が現れたのではないかと考えられます。

しかしながら、茶業界を取り巻く情勢は大変厳しい状況が続いていることから、第2次島田市茶業振興基本計画では、激しく変化する環境に対応し、島田市の茶業が活力ある日本一の茶産地として、持続的に維持・発展し、生産者が安定的に茶の生産を行うことができるよう、「稼ぐ茶業」をめざして策定するものです。

第2次島田市茶業振興基本計画の指標

	<令和2年度現況>	<令和7年度目標>
● 市内共同茶工場の一番茶平均単価	2,174 円/kg	2,700 円/kg
● 農業所得でお茶が中心(50%以上)である認定農業者数	334 人	350 人
● 農地所有適格法人数	13 経営体	30 経営体
● 茶工場を経営する法人数(茶農協を除く)	17 経営体	40 経営体
● 農業生産工程管理手法(GAP)導入経営体数	37 経営体	50 経営体
● 農地中間管理機構、農地利用集積円滑化事業等による 担い手への農地集積率	68%	80%
● 改植面積(平成23年度からの累計)	57.36ha	100.0ha
● 島田市内の茶商が取扱う輸出量	177t	200t
● 茶草場農法の認定者数	13 認定者	18 認定者
● 有機栽培茶の茶園面積	31.70ha	60.0ha
● 碾茶生産量	96t	200t
● 緑茶化計画にそった茶関連商品数	38 品	50 品

◆めざす姿を実現するための施策(振興策)

1. 魅力ある茶業経営体の育成

新たな担い手の育成や茶を軸とする複合経営の導入、GAPをはじめとする認証取得の普及に向けた取り組みを推進することで、市の茶業を魅力あるものとし、意欲ある生産者が安定的かつ継続的に茶業経営ができるよう、環境を整備します。

- (1) 茶業経営の合理化を推進します
- (2) 荒茶工場の経営強化を図ります
- (3) 基幹作物を茶とした複合経営への取組を推進します
- (4) 安全・安心なお茶の生産を推進します

2. 茶園の集積や生産基盤の整備

荒廃茶園の発生を防止し、茶業経営の効率化を図り生産性を向上させるため、集落・地域での話し合いにより、地域農業のあり方について議論を進め、人・農地プランに基づき農地中間管理事業を通じて茶園の集積や生産基盤の整備を積極的に進めます。

また、市内の茶園の多くは、主に昭和 40 年代から 50 年代にかけて、在来種から品種茶（主に「やぶきた」）へ改植がされ、その後の再改植が遅れていることから改植等による品質の向上を促進します。

- (1) 農地の集積、荒廃茶園の解消を図ります
- (2) 効率的な茶園の管理を推進します
- (3) 茶改植等を推進します

3. 島田市のお茶のブランド化と販路の拡大

島田市では、豊かな自然を背景に発展してきた、歴史ある、島田茶、金谷茶、川根茶の三産地のお茶が生産されています。

これからも三産地のお茶を広く PR するとともに、国内外に向けてブランド化を図り、消費者に求められるお茶を生産し、海外への輸出も含めて、販路の拡大を目指していきます。

また、世界農業遺産に認定された「静岡の茶草場農法」の知名度や関心度を高めるための PR 活動を実施します。

- (1) 島田市のお茶のブランド化を推進します
- (2) 特色あるお茶づくりなど消費者に求められるお茶の生産を支援します
- (3) 海外への輸出を促進します
- (4) 世界農業遺産「静岡の茶草場農法」の PR と実践者への支援を促進します
- (5) 生産者の販売力の向上を目指します

4. 中山間地域の特性を活かした茶業の振興

中山間地域は、これまで地域条件等を活かした良質茶生産により銘茶の産地が形成されてきました。しかし、急激な人口減少や生産者の高齢化、低迷する茶価の影響を大きく受け、後継者不足や荒廃茶園の拡大が課題となっています。

このような低迷する中山間地域の茶業振興策として、引き続き良質茶の生産を維持していくとともに、地域の特性を活かした新たな茶生産の取り組みを推進します。

- (1) 有機栽培への転換を推進します
- (2) 碾茶生産を支援します

5. 島田市緑茶化計画の推進

2015年11月に発表した、シティプロモーション「島田市緑茶化計画」(SHIMADA GREEN Ci-TEA JAPAN)を全国に発信するとともに、市内小学生や若い世代に茶文化の継承を図ります。

- (1) 島田市緑茶化計画と連携して宣伝・PR活動を行います
- (2) 茶文化の継承を推進します

□基盤整備事業【西原地区】(平成27年度～平成29年度)



- 地区面積 5.0 ha
- 農家数 30戸→11戸
- 団地数 42団地→11団地
- 筆数 81筆→27筆
- 1haを超える農家3戸誕生